



自力と他力

Beyond Your Mind

永田円了

自力とは、自分の力で物事を前へ進めること。他力とは、人間の計らいを超えた力のこと。自力とは科学で証明できる世界のこと。他力とは人知では証明できない、見えない世界のことである。自力では、この人生を生きている、と言い、他力ではこの人生は、生かされていると言う。

他力：生かされていることの科学的事実

人は75兆個の細胞からできている。75兆という数値は、顕微鏡で1秒間に5個見る×100年×5000回という、途轍もない数なのである。また人の心臓は一日に10万回鼓動する。そして人が生きることに必要な、太陽、酸素、水など、実は何一つ人間が作ったものではないという事実。この単純な事実からも言えることは、生命というものは、<他力>生かされている、という土台の上で生きていると言うことである。

科学（自力）の本質

科学は本質的に、答えられる問題を探しだして、それに答えるだけのもの。答えられない問題は、初めから切り捨ててしまう。切り捨てられたものは、忘れ去られ、解かれた部分だけが私たちの目の前にでてくるので、人間はいかにも何でもできる、何でも知っているかのように錯覚を起こす（生命学者・柳沢桂子）

この生命世界の本当のおもしろさは、今すでに証明されている世界（5%）の中にはなく、むしろまだ証明されていない、未知の世界（95%）の中にあるのです（What the bleep do we know より）。

科学（自力）と宗教（他力）

原人が四つん這いから立ち上がって（500万年前）、握ることのできる前足を手にしてから、人類は道具を使い、火を発見して現代に至った。ブッダは、その立ち上がった足を組み合わせて坐禅をし、その便利な手を合掌して心の尊さを発見した。科学は、物の法則を発見し、宗教は心の法則を見いだしたのである。



自力のパワー



この命は天から授かったと言う（他力）。しかし出産の過程では、赤ちゃんは自分の判断と意志でうまれてくるのである（自力）。陣痛が起こるには、陣痛を起こすためのホルモンが必要となる。そのホルモンを出しているのは、なんと赤ちゃん自身であるという事実（驚き!）。

赤ちゃんはとても賢く、自分自身でいま陣痛に耐えられる身体かどうかを判断するという。そして一番いいタイミングで自分が生まれてくる日にちを選ぶのである。出産は、母親にとっても赤ちゃんにとっても、まさに命懸けの行動であり、全てが奇跡の連続なのである。

私たちの誕生日は、つまり私たちが命を懸けて選んだ日、である。『ある助産婦さんのお話』『心が震える感動レシピ』

自力（5%）と他力（95%）のコラボレーション

ええ、こんな事が自分にできた！ 思いもよらない良い仕事ができ、素晴らしい作品が完成した。こんな時、私たちは何か人知では計れない天からの力（他力）が働いたと気づく。他力とは、いつも私たちの魂の成長を深く願っている自愛である。他力とは、全ての出来事の背後にスタンドバイして出番をまっている存在である。この力を取り込むことができるかどうかは、自力のエネルギーがどれだけ良質なものであるかにかかるといえる。

<事例 DVD>

NHK こころの時代／笹田信吾氏／何一つ人間がつくっていない
「悲しい別れ」大島史子ちゃんのお話、平成1年5月富山 KNB 放映
柳沢桂子／科学の本質、人間のおごり高ぶり、高慢さ
棟方志功の他力／驚いても驚き切れない
映画 Contact / 証明できる世界に執着したエリーの意識改革
映画 キャラバン／自力と他力のコラボレーション
歌・The Impossible Dream 見果てぬ夢、ブラザーズ・フォー

円了のホームページ: www.enryo.jp



仏映画「キャラバン」